３月セミナーを３月１６日(土)　１３：３０～１５：３０に開催しました。

会　場　　愛知文教大学　２０１教室

テーマ　「学びを楽しむ授業づくり・学校づくり２」

講　師　学び合う学び研究所フェロー　林　文通先生

| |
|---|
| 今日の講座で学んだ中で重要だと思ったことは、リクレクションからの学びです。<br>林先生、授業者の先生ありがとうございました。自分の母校Ａ中学校のとってもすてきな子どもの姿でした。わからないことばかりでしたが、先生方や林先生のお話を伺う中で少しずつ映像になってきました。ありがとうございました。<br>林先生があのグループのつぶやきや発言を逐語録になされたのは、相当なご苦労があったことと思います。全くきこえてこない言葉ばかりでした。また、それをあれほどわかりやすく分析し、価値づけされ、どんなことが起きていたのかを明らかにされました。自分にはとてもできないことばかりです。<br>数量的分析について、いろいろな課題が指摘されていますが、林先生の数量的分析についてはかなり意味があることだと思いました。これからもたくさん学ばせてください。ありがとうございました。 |
| 今日の講座で学んだ中で重要だと思ったことは、子どもたちの具体的な学びの姿や声に真摯に向き合うこと。改めてその大切さと面白さを学ぶことができました。学び直しです。<br>子どもたちの声をひろうのは本当に難しいですね。教科内容がよく理解できていないこともありますが。発言の記録を見せていただいたことや感想交流、林先生のお話が聞けてとても楽しい時間になりました。学びをあきらめない子どもたちを育ててみえる授業者の先生が素敵です。ありがとうございました。 |
| 今日の講座で学んだ中で重要だと思ったことは、「深い学び」の探究･･･深い学びとは何かを話し合うことの大切さです。<br>とても興味深い講義内容でした。グループ内の活動を分析して、「深い学び」の分析をフィラーと発話速度から分析し、実際の授業で発話速度が遅くなるまで、グループでの活動を待てているかという点は、とても興味深かった。また、文節構造図は、グループ内での生徒のかかわりと、深い学びの関連を視覚化でき、今後に役立つものと感じた。今後、実際にこのような分析方法を実施していきたいと思った。ビデオの授業の課題のレベルは素晴らしいと感じました。このような課題があってこそのグループでの協同であり、深い学びだと思う。授業者ならびに講義の先生に感謝申し上げます。 |
| 今日の講座で学んだ中で重要だと思ったことは、一人一人の学びを理解することです。<br>生徒一人一人の発言から、学びの深さを定量的に測ろうとする、いかにも理科を専門とする林先生らしい取り組みがとてもおもしろかったです。一つのことを掘り下げるということは、こういうことかと深く学ぶことができました。<br>一つのグループの一人一人の発言は、一酸化二水素など実に興味深かったです。一人一人が、こんなにも個性豊かにいろいろと考えていたのかとか、仲間の発言を聴いて微妙に変化していく様子とか、細かくフィラーや発言の速度までも分析することで分かる様々な心情やその変化とか、実におもしろいものである思いました。 |

| |
|---|
| この授業の元となる塚田先生のここまで生徒を育ててきた指導力や塩の成り立ちに注目させるために硫酸バリウムをいれたデザイン力も素晴らしかったです。<br>50 分の授業でこんなにも深く学べるものかと思いましたし、改めて一人一人の学びの様子にもっともっと注目すべきであると思いました。とても学びの多かったセミナーでした。<br>ありがとうございました。 |
| 突然の参加でしたが受け入れていただきありがとうございました。<br>「協同的な学び」について改めて再確認することができ、うれしかったです。特に、「他者の考えに触れることで、自分の考えがクリアに」なっていった生徒の様子が印象に残りました。また、林先生のフィラーのお話も興味深かったです。明日から様々な場で気にしてみようと思います。大人も子どもも共に「学びを楽しむ」授業・学校づくりを少しでも実践できるように学び続けていきたいです。ありがとうございました。 |
| 主体的で深い学びはグループでの学びと個での学びの２種類が存在していることを強く感じています。個での学びも、教材としっかりと向き合えば、それは主体的で深い学びになり得ると思います。<br>一方、グループで学び合う場合、情報を整理したり、深めたり、投げかけるような質問がグループで生徒同士であることにより、「深い学び」が起こり得ます。その深い学びをグループ内でとどまらせることなく、他のグループ内で自由会話を途中で許可することなどにより、さらに有意義な授業になり得ることを今日のセミナーで学びました。<br>教師の授業デザイン力で良いものにも悪いものにもなることも学びました。 |
| 今日の講座で学んだ中で重要だと思ったことは、話す速度と深い学びには相関関係があるということです。<br>久しぶりの理科の授業が純粋に面白かったです。授業デザインは変更していくものだと思いますが、生徒の学びに合わせた塚田先生の判断はさすがだなと思いました。学び終えた生徒がさらに学び直しをする様子がよく分かりました。<br>また、林先生の研究も面白いなと感じました。考える児童の姿を数値で評価することで学びの根拠にもなり得るなと感じました。授業の速度、話す速度にもアンテナを立て、授業を見ていきたいと思いました。ありがとうございました。 |
| 話し合いながら学習をすすめる授業の良さを感じました。<br>電離という状態を理解するために、分解、分離等、離れることや分かれることを意味する言葉が生徒の間から出ました。そういった話し合いがあることにより、よくわからない子どもたちも、離れるや分かれることのイメージが膨らんだのではないでしょうか。しばらくして、ある生徒が、それが電離であるということを、教科書か資料集からか、見つけていました。その間合いがすごくいいと思いました。電離という言葉から学習が始まった場合、離れるや分かれるというイメージがないままの場合もあるように思います。<br>手元に授業の記録がないので、はっきりしたことが言えませんが、結合に関しても、合わさることのイメージを表す言葉がいくつも出てきて、それから結合という言葉が出てきたように思います。<br>私が学習してきた化学では、まず定義から習い、そして、その具体的な形を学習したような |

気がします。化学式の表すイメージを膨らます時間があることは、大事にされてこなかったように思います。そういった現象を表す言葉を知っているかどうかが、試験問題に出され評価されます。そうすると、その現象の本当の意味を知っているかどうかよりも、その言葉を知っているかどうかが重要になると思います。

生徒が、話し合い活動を通して、試行錯誤しながら、電離や結合という言葉に至るまでの学習の持つ間がとても良い時間だと思いました。

今日の講座で学んだ中で重要だと思ったことは、対話が学びを深めるです。

今日の授業を拝見して、タブレットがあっても、それだけでは一人ひとりの学びは深まらないと、痛感しました。

学びは、早く正解にたどりつくことではなく、最適解にむかって 行ったり来たり、時には立ち止まったり、戻ったりしながら、自分のペースで 自らつかみとっていくものだと、今日の授業の生徒から学びました。それはタブレット(ネット情報)にある 美しい正解だけで生まれるものではなく、様々な情報や思考や作業が必要ではないでしょうか。他者の考えもその一つであり、もっといえば それなしでは学びは成立しないと改めて学びました。

もちろん タブレットを通して、他者の考えを得ることもできるでしょう。でも、瞬時にやりとりをし、しぐさや声のトーンを自然につかみ、自分の学びに生かしていけるのは、フェーストウフェースでの対話があるからではないかと、林先生の研究から学ばせて頂きました。ありがとうございました。